漢方薬「補中益気湯」服用による精液所見改善効果について

当院では男性外来を受診された方で精子の所見が良くなかった方を中心に「補中益気湯」という漢方薬をお勧めしています。補中益気湯は古くから精子の所見が改善されると言われていますが、その影響が当院でどれくらい出ているか算出してみました。

対象は2021年1月～2024年3月までの間に男性外来を受診した364名の方です。内訳としては補中益気湯を処方した64名と、医師が処方不要もしくは本人が処方希望しなかった300名です。それぞれ1回目の精液所見と2回の精液所見の変化率を比較しました。2回目の精液検査は1回目の検査から3ヶ月以上経過した時点での結果です。精索静脈瘤所見の有無に着目した改善比較もしました。

補中益気湯を飲んだ方(以下：補中グループ)と飲んでいない方(以下：コントロールグループ)における年齢(36.5vs36.5)、 1回目と2回目の精液検査の経過月数(4.2vs4.6)、および禁欲日数(4.1vs3.8)に有意な差はありませんでした。補中グループとコントロールグループの各精液所見の変化率を比較した結果、運動精子数(4.3vs1.7)(図.1)と精子運動率(1.6vs1.1) (図.2)に有意差が見られました(P＜0.01)。精液量(1.1vs0.9) (図.3)と総運動精子数(2.0vs1.7) (図.4)においても、有意な改善が見られました(0.01＜P＜0.05)。補中グループにおいて精索静脈瘤の有無で効果を比較した結果、総運動精子数(11.1vs2.8) (図.5)と総精子数(3.4vs1.6) (図.6)で精索静脈瘤がある人に改善が見られました。

図.1

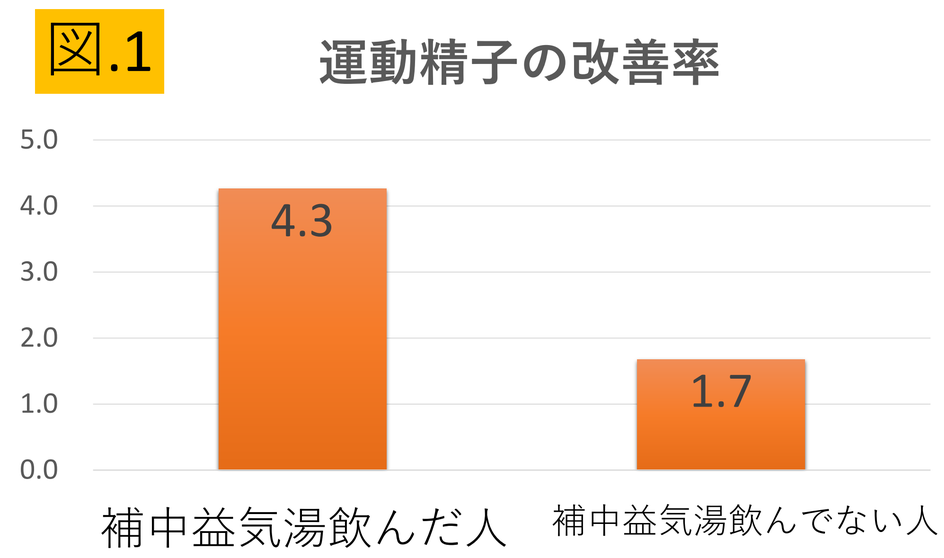


図.2

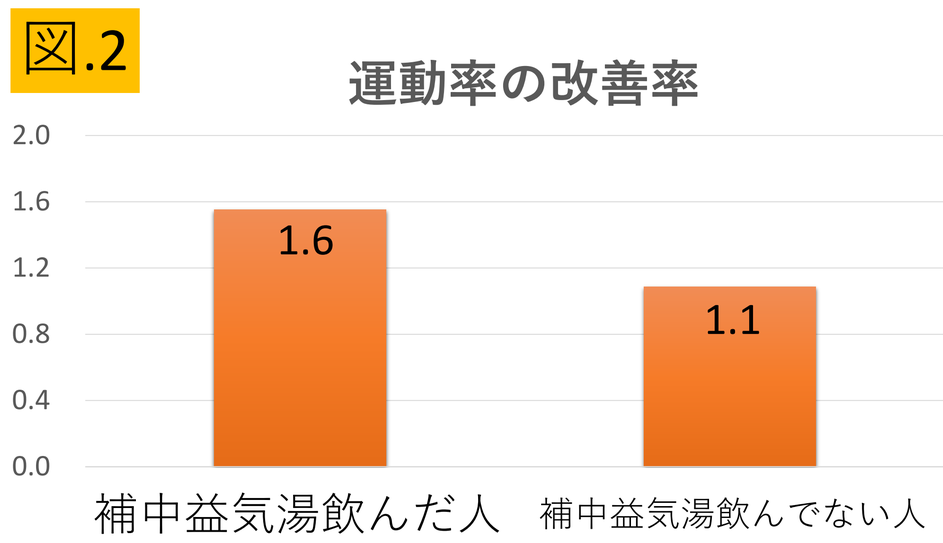


図.3

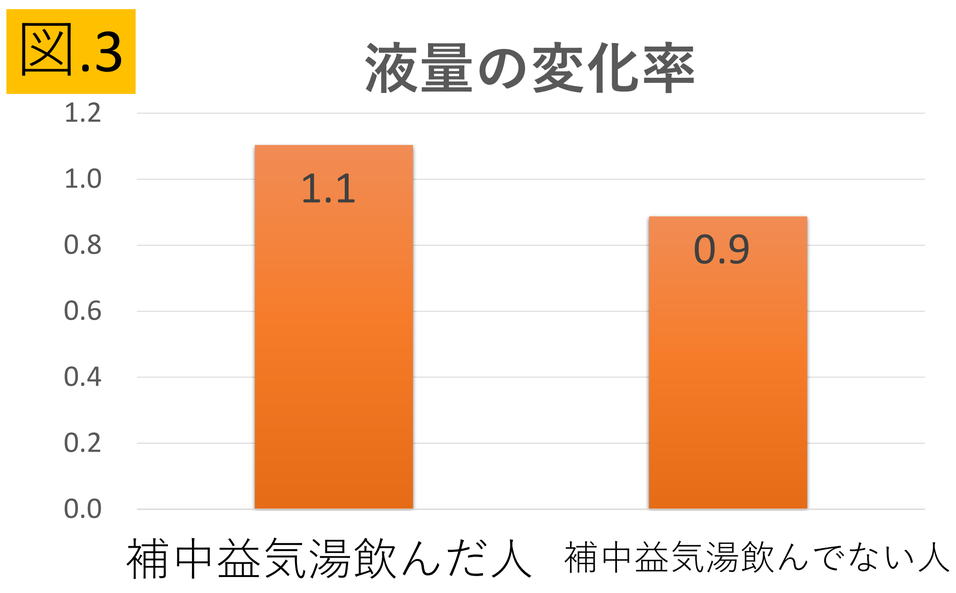


図.4

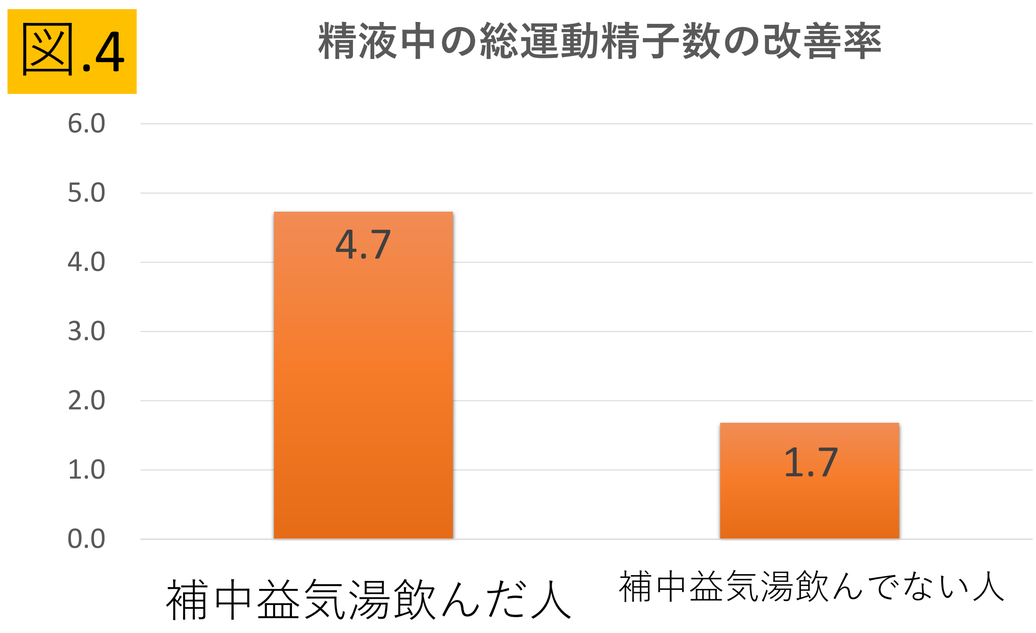


図.5

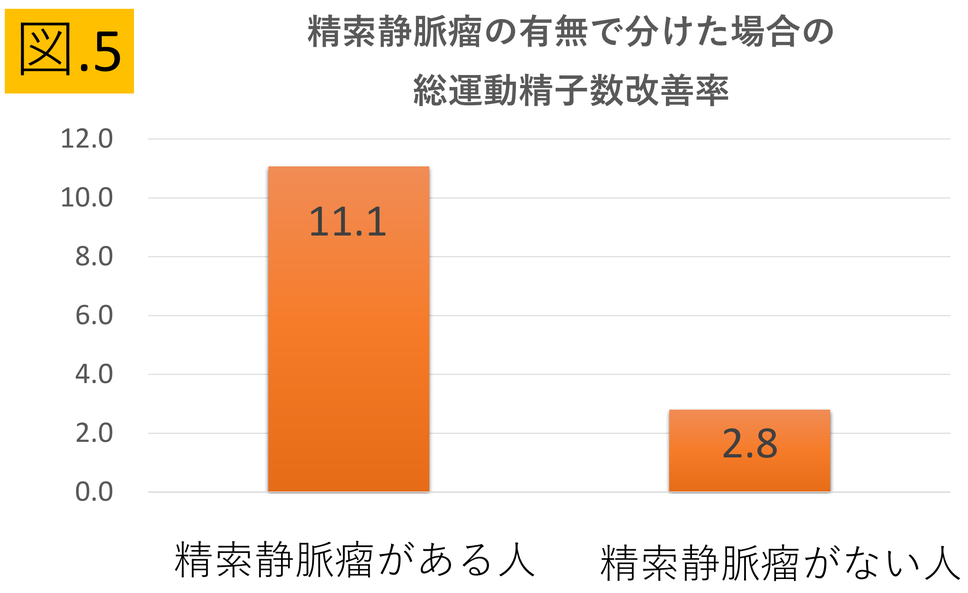
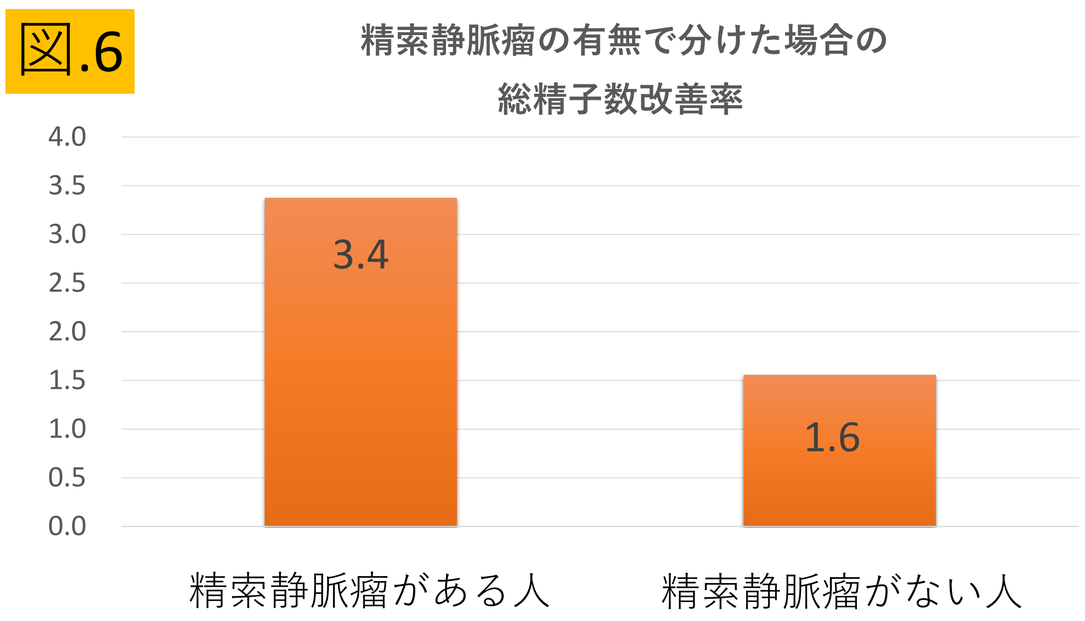


図.6



今回の検討では補中益気湯を飲むことで精液所見全体に改善が見られることがわかりました。精子がつくられるのに最低でも2カ月半はかかるので、１日3回・ 3カ月程度は飲み続けなければ効果は期待できません。続けることはなかなか大変かもしれませんが、上記のように飲まない場合と比べて改善が見られるので、不妊治療中に飲むことを検討してみてはいかがでしょうか。

また、今回の結果は平均値ですので、効果には個人差があります。補中益気湯について詳しく聞きたい場合は男性外来受診時に医師に聞いていただきますようお願い致します。

園田桃代 ART クリニック
Assisted Reproductive Technology
培養士　山本修士